

< 謹 告 >

主催：JABM 日本ボンド磁性材料協会

2026 JABM 新春公開セミナー

JABM 協会恒例の新春公開セミナーでは、磁性材料に拘ることなく、幅広い興味深いテーマを取り上げています。今年、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 清水孝太郎氏をお迎えし、「希土類(レアアース)産業の経済的重要性と今後期待される研究開発ほか」と題してご講演いただきます。

ご多忙の中ご登壇いただく清水氏に感謝しつつ、希土類の産業的意義と次世代の挑戦を考える絶好の機会です。ぜひ、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：2026 年 1 月 9 日（金）

講演会：15：30 ～ 17：00

場所：アートホテル日暮里ラングウッド

参加費：会員：無料 非会員：5,500 円 学生：無料

プログラム 総合司会 JABM 企画委員長 脇本 直樹（戸田工業株式会社）

開会挨拶 JABM 会長 有泉 豊徳（東英工業株式会社）

1	15：30 ～ 17：00	清水 孝太郎 氏 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
		『 希土類(レアアース)産業の経済的重要性と 今後期待される研究開発ほか 』 日本希土類学会の第 43 回講演会（令和 7 年 11 月 14 日）でご紹介したことを基礎としつつ、今後の市場動向に影響するであろう事項として、国際希土類工業協会の活動から見てくる欧米勢が抱えている懸念、分析技術から見てくる中国希土類産業の実力、希土類をディーラーの材料とする米国の本音、新たな市場ルール形成の場となりつつある希土類の国際標準化動向等に触れる予定です。希土類の年間生産量は鉄鉱石等と比べて極めて少ないにもかかわらず、NdFeB 磁石をはじめとする幅広い用途で不可欠な存在です。触媒、蛍光体、電池材料など多様な分野で利用され、まさに産業基盤となっています。生産量はわずかでもその経済的重要性は極めて大きいものがあるといえます。希土類産業の経済的重要性を定量的に評価するとともに、磁石に続く新たな研究開発のあり方を考察します。